

039

子どもから要介護高齢者まで 楽しみながら学ぶ防災カードゲーム

取組主体

名古屋学院大学

従業員数

想定災害

実施地域

483人

全般

愛知県

・大学の授業内で、学生らが認知症や要介護高齢者、子どもが楽しみながら防災についての知識を学べる「ぼうさい神経衰弱」「避難バッグゲーム」を作成し、地域のイベントとして展開した。

1 取組の概要

授業内に学生主体で2種類の防災カードゲームを作成

- ・名古屋学院大学は、教養科目の少人数授業として「上級まちづくり演習」を開講している。2019年春、その授業内にて、学生により要介護者向けの防災カードゲームである「ぼうさい神経衰弱」「避難バッグゲーム」の2種類が作成された。
- ・「ぼうさい神経衰弱」は、防災用品や防災行動をカードにした神経衰弱、「避難バッグゲーム」は、避難バッグの中身を各々作り、災害時のアクシデントに応じて、誰が一番対応できたかを競うゲームとなっている。これらは本演習で福祉施設における減災対策を学び、数種類の防災に関するカードゲームを体験したことから、学生たちが「要介護高齢者向けのカードゲームはどのようなものがよいか」についてディスカッションを重ねた末に完成したものである。



避難バッグゲーム

特別養護老人ホームにて防災カードゲームの贈呈式を実施

- ・2019年夏、完成した防災ゲームを実際に使用してもらうため、学生らは名古屋市熱田区内の「特別養護老人ホームひびのファミリア」を訪問し、防災カードゲームの贈呈式を行った。そのほか、老人保健施設やデイサービスセンターなどの高齢者向け施設、さらには小学校や高校、子ども防災のNPO団体など数多くの施設・団体に寄贈している。



老人ホーム訪問

「避難バッグゲーム解説書」を作成・配布

- ・2021年春、防災に関する理解をより一層深めてもらうため、学生たちにより「避難バッグゲーム解説書」が作成、寄贈団体に配布された。これは、防災グッズの使用法や身近なものでの防災グッズの作り方などを紹介するものである。

2 取組の特徴（取組の狙い、工夫した点、差別化した点等）

- ・災害時には高齢者の死亡率が高く、高齢者自身の「受援力（支援を受ける力）」を高める必要がある。一方、デイサービスの現場では災害リスクが高いと思われる要介護高齢者の防災に関する学びは重要であると考えられているものの、そのような機会を設ける余裕がない。また、現場は多忙を極める中、日々のレクリエーションメニューに頭を悩ませている。
- ・この2点を踏まえ、準備などの負担が少なく気軽にレクリエーションで使える防災ゲームの作成を開始。製作にあたり、認知症や要介護であっても遊べる「シンプル」かつ「ユニバーサルデザイン」であることを念頭に置き、カードの大きさや紙質にもこだわり作成を進めた。
- ・具体的な工夫点として、防災に関するイラストとワンポイント知識が書かれたカードの「ぼうさい神経衰弱」はユニバーサルデザインを重視。大きくめくりやすい紙質を選んだほか、手が伸ばせない方でも参加できるように裏面の色で絵合わせができるようにするなど配慮して製作された。

国土強靱化

- ・学生が考えたオリジナルゲームである「避難バッグゲーム」は災害の場面ごとに必要な防災グッズが学べる仕組みになっている。簡単なルールで誰でも楽しめる内容で作られているほか、イラストが大きく描かれており高齢者でも分かりやすいような工夫がされている。
- ・学生に主体的にゲームを考えてもらう工夫として、既存の防災ゲームの体験やデイサービスの視察等を行い、利用者像や活用場面、課題やポイントについてイメージを持ってもらったこと、ゲームクリエイターの方からも講義してもらい、単なる知識の詰め込みにならない「ゲームにする」という点での注意点やポイントをイメージさせたこと、がある。

3 取組の効果

- ・教育分野からも授業や防災イベントなどで活用したいとの声が寄せられた。「避難バッグゲーム」は増刷され、多くの施設や団体で活用されている。
- ・学生サポーターが、名古屋市教育委員会主催の小学生向け土曜学習プログラムなどにおいてゲームのファシリテーターを行うようになった。

4 取組への想い

- ・災害支援団体やデイサービスの現場の声をゲームに反映させ、高齢者が楽しみながら学べる内容であることを大切に試行錯誤をくり返し、ゲーム作成に取り組んだ。
- ・防災に関する知識を盛り込みつつも、シンプルで誰でも楽しめる内容にまとめることに注力した。「楽しさ」と「学び」のバランスは非常に苦労した点である。

5 防災・減災以外の効果

- ・学生たちがゲームのファシリテーターとなり、さまざまな地域イベントや研修に参加した。
- ・外部機関との交流や学生自身の地域貢献意識の向上につながった。

6 現状の課題・今後の展開等

- ・コロナによる活動自粛の影響で停滞していた、学生たちによる防災啓発活動の機会を再び設けていく。
- ・名古屋市や瀬戸市内の関係機関・団体との連携・共同によるイベントを増やして新たな取組や発展につなげていく。

7 周囲の声

- ・「季節によって防災の内容が変わってくると感じた。」（ゲーム体験をした高齢者からの声）
- ・「自分が知らなかったことや必要な持ち物がこのゲームを通して分かったので、家庭などの非常用持ち出し袋をもう一度見直したい。」（ゲーム体験をした子どもからの声）

担当者の声

- ・本ゲームは、長年福祉施設の現場で働いてきた自身の経験から発想しました。介護が必要な方や高齢者の方たちは自身で備えること、避難することは難しいかもしれませんが、それは防災意識を持たなくていいということではありません。日々の生活自体が大変で、なかなか非常時を想定することは難しいかもしれませんが、防災の意識を持ち、支援を受ける力（受援力）を高めることは、自分だけでなく家族や地域にとっても大切なことだと考えています。
- ・「事前に避難しよう」という家族や地域の呼びかけに「そうだね」と言えることは、自身の安全だけでなく、家族の安全にもつながります。いつ起きるか分からない災害に対し、意識を持ち続けるには、気軽に楽しく学べる機会が大切だと感じています。小さな取組ではありますが、今後も地域の防災意識の向上に寄与していきたいと思えます。

問合せ先

名古屋学院大学 法人番号：5180005006887
電話番号：052-678-4085（社会連携センター）
FAX：052-682-6813（社会連携センター）
Email：renkei@ngu.ac.jp
URL：https://www.ngu.jp/and-n/

動画

—

サイト URL

